

【4-8 定性的システマティックレビュー】

CQ	5a	術前化学療法前後で臨床的リンパ節転移陰性症例に対してセンチネルリンパ節生検による腋窩リンパ節郭清の省略は推奨されるか？
P	原発性浸潤性乳癌	かつ 化学療法施行前後臨床的腋窩リンパ節転移陰性症例
I	センチネルリンパ節陰性の場合腋窩温存、センチネルリンパ節陽性の場合腋窩郭清（センチネルリンパ節生検による腋窩個別化治療）	
C	なし	
臨床的文脈	臨床的リンパ節転移陰性症例が術前化学療法施行後にもリンパ節転移陰性と判断された症例に対して、センチネルリンパ節の転移状態により腋窩郭清の適否を決定することは診断、治療として妥当であるか？	
01	全生存率の低下	
非直接性のまとめ	単施設でアウトカム測定値は同じであるが、14%が術前ホルモン治療例、介入時のトレーサーはRIのみでSNB施行。対照はバラツキあるため、非直接性はややおとる	
バイアスリスクのまとめ	アウトカム測定検出は同じだが、フローアップ期間がやや短く、盲検下できず、背景因子にばらつきあるとみなされるため、バイアスリスクは大きいとみなす。	
非一貫性その他のまとめ	単施設、単一群、単発論文のため比較できず非一貫性は大きいとみなす	
コメント	全生存率について報告しているほぼ唯一の論文のため評価はむずかしい Five-year OS : 90.7% (95% CI, 87.7-93.7)	
02	無病生存率の低下	
非直接性のまとめ	単施設でアウトカム測定値は同じであるが、介入時のトレーサーはRIのみでSNB施行。対照はバラツキあるため、非直接性はややおとる	
バイアスリスクのまとめ	アウトカム測定検出は同じだが、フローアップ期間がやや短く、盲検下できず、背景因子にばらつきあるとみなされるため、バイアスリスクは大きいとみなす。	
非一貫性その他のまとめ	単施設、単一群、単発論文のため比較できず非一貫性は大きいとみなす	
コメント	無病生存率について報告しているほぼ唯一の論文のため評価はむずかしい Five-year DFS : 80.6% (95% CI, 75.4-85.8)	
03	腋窩再発率の上昇	
非直接性のまとめ	単施設でアウトカム測定値は同じであるが、介入時のトレーサーはRIのみでSNB施行。対照はバラツキあるため、非直接性はややおとる	
バイアスリスクのまとめ	アウトカム測定検出は同じだが、フローアップ期間がやや短く、盲検下できず、背景因子にばらつきあるとみなされるため、バイアスリスクは大きいとみなす。	
非一貫性その他のまとめ	単施設、単一群、単発論文のため比較できず非一貫性は大きいとみなす	
コメント	腋窩再発についてある程度の母数をもって報告しているが、1論文のみのため評価はむずかしい	
06	患側上腕に対する合併症・後遺症の軽減	
非直接性のまとめ		
バイアスリスクのまとめ		
非一貫性その他のまとめ		
コメント	術前化学療法症例での論文はないが、初発乳癌症例での腋窩郭清に対するセンチネルリンパ節生検の患側上腕に対する合併症、後遺症の軽減は明らかである。	